



マディナ・ジュメイラの広大な敷地内にあるもう一つのホテル、ミナ・アッサラム[Mina A'Salam]の全景

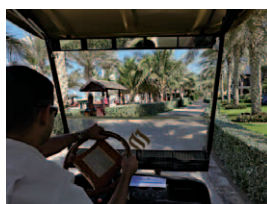


アラビア風のエキゾチックな雰囲気のレセプションルーム



マディナ敷地内はクリーク(運河)が縦横に結んでおり、ゲストは渡し船の「アブラ」で移動できる。後方に見える巨大な建物はブルジュ・アル・アラブ

敷地内は余りにも広いので、マディナ専用カートの利用が便利だ



筆者 小原康裕

ホテルジャーナリスト。慶応義塾大学法学部法律学科卒。74年Munich Re入社。85年築地原健株代表取締役。2001年投資顧問会社原健設立、代表取締役CEO。JHRCA、日本ホテルレストランコンサルタント協会理事。
※現在、著者のホームページで「世界のリーディングホテル」を連載中。多くの美しい写真と興味深いコメントで、世界中のホテルとそれに関連都市を紹介。
www.jhrca.com/worldhotel

マディナ・ジュメイラ/アル・カスル Madinat Jumeirah/Al Qasr

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテルエが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前に取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立っての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままを撮ってきた写真を掲載する。

※本連載は毎月2・4週号掲載



アラビア語で“宮殿”という意味を持ち、マディナ・ジュメイラの中心的役割を担うアル・カスル[Al Qasr]の正面ファサード。ホテルのシンボルであるアラブ馬のオブジェがゲストを迎えてくれる



浜辺近くにある大きな専用スイミングプール



美しい浜辺には幾つものカバナが並び、「Talise Spa」も出張カバナを持つ



「Al Fayrooz Lounge」の外側テラスにあるオープンエアのラウンジ。ブルジュ・アル・アラブが間近に望める



エントランスホール先にある吹き抜け部分。上段がラウンジバー「Al Fayrooz Lounge」、下階はオールデイダイニング「Arboretum」



スク内のイタリアンレストラン「Segreto」のテラスから望むアル・カスルの正面部分



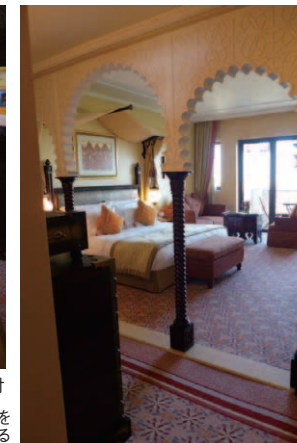
オールデイダイニング「Arboretum」テラス席の賑わい



いかにもアラビアンムードが漂う「Arabian Deluxe Room」のベッドルーム。約55㎡の広さがあるが、アル・カスルでは標準的な客室面積である



キングベッドからシッティングエリア方向の俯瞰。広めの専用テラスが付属している



コルトバにある有名なメスキータの「円柱の森」を彷彿させるアーチが独自のインテリア感を主張している

マディナ・ジュメイラ「Madinat Jumeirah」とはアラビア語で“ジュメイラの都市”という意味で、総面積40万㎡の壮大な敷地に3つの豪華ホテルと巨大なスク(市場)、2kmに亘るプライベートビーチなど、まさにアラビアンナイトの世界を具現化した総合都市といえる。3つのホテルとは“宮殿”という意味のアル・カスル「Al Qasr」、 “平和の港”を意味するミナ・アッサラム「Mina A'Salam」そして“夏の別荘”を意味するヴィラ様式のダル・アル・マシャフ「Dar Al Masyaf」から成り立っている。マディナの敷地内はドバイ旧市街のクリーク(運河)沿いにある歴史的なアラビアの街並みや生活を再現させ、ジュメイラという全く別のリゾート地に復元されている。

アル・カスルはマディナの中心的役割を担うホテルで、メインゲートからアプローチを進むと車寄せ前にある何頭ものアラブ馬のオブジェに迎えられる。迷路のような館内を歩くとシャンデリアと壮麗な大理石の床が美しいエントランスホールに目を奪われる。アラビア風のエキゾチックなレセプションルームで手続きを済ませると、その先は大きな吹き抜けになっている。上段はピアノ演奏があるバー・ラウンジ「Al Fayrooz Lounge」で、外周りは眺めの良いオープンエアのテラスラウンジになり、下階はオールデイダイニングの「Arboretum」で、クリークに面したテラス席が気持ち良い。敷地内のクリークは総延長3.7kmに及び、「アブラ」と呼ばれる昔ながらの渡し船がシャトルサービスとして各レストランや3つのホテルを結んでいる。ミナ・アッサラムに行く途中には、アラビアの街にある入り組んだ路地のバザールを模したスク「Souk Jumeirah」があり、金銀細工や絨毯、雑貨など土産物の買い物や食事に楽しい時間が過ぎる。

2004年にグランドオープンしたアル・カスルはスイートを含めて全292のゲストルームを擁し、レストラン・バーは8か所を数えるが、3つのホテルとスクを合わせると実に44か所となり選択するのに困るくらいだ。専用桟橋で渡る洋上のシーフードレストラン「Pierchic」やスク内のイタリアン「Segreto」などがお勧めの人気店だ。筆者がアサインされた客室は「Arabian Deluxe Room」で約55㎡の広さがある。客室インテリアはまさにアラビアンナイトの世界で、コルトバにある有名なメスキータの「円柱の森」を彷彿させるアーチが独自のインテリア感を主張している。スパは「Talise Spa」がヴィラ棟内にあり、26のトリートメントルームを持つゴージャスな施設だ。

“アラブの塔”を意味するブルジュ・アル・アラブに対し“アラブの宮殿”を自負するアル・カスルは美しいプライベートビーチでお互いに結ばれている。前者は高さで豪華さで、後者は広さで“すべて”という意味で、それぞれドバイの規模を誇る。ホテルに対する一般概念を遥かに超えたジュメイラ・グループの熱きホスピタリティ理念は、ドバイから全世界へと飛翔し始めている。